

# デーリー東北

2023年(令和5年)8月28日(月曜日) (3)

## 八戸工業大・大室康平准教授「スポーツ科学」

# 効率的な上達方法探る

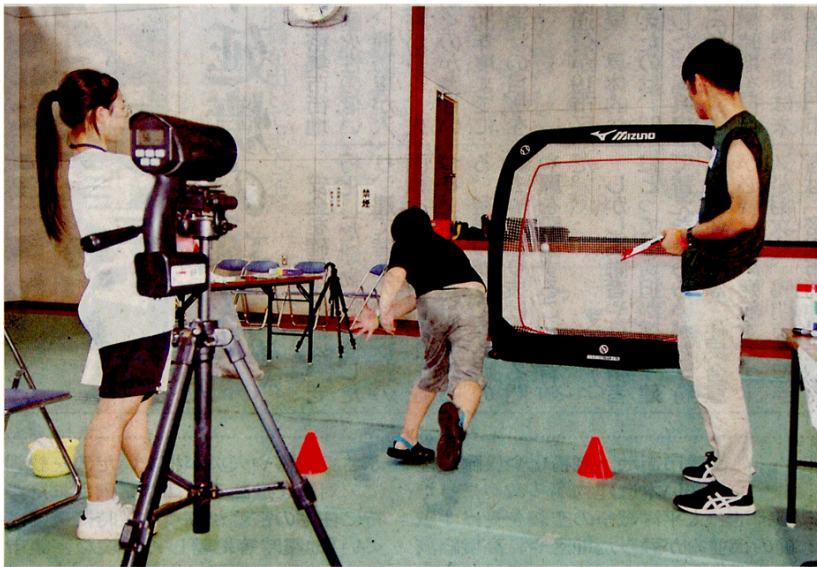
## 最前線 研究室の挑戦

スポーツを考察の対象とした学問の総称である「スポーツ科学」。ハイスピードカメラを使用した画像分析など、運動中の動作に関する研究を進めている。

小学校から大学まで野球を続けたが、小学生の頃は鉄棒の逆上がりができなかった。どうすれば上手になれるのかと常に考えていた」と語る。大学時代には象徴的な出来

**略歴** 大室康平 八戸工業大基礎教育研究センター准教授。前職は青森県体育協会(現県スポーツ協会)青森県スポーツ科学センター職員。所属学会は日本体育・スポーツ・健康学会など。早稲田大学院スポーツ科学研究科博士課程満期退学。むつ市出身。42歳。

## 経験者と未経験者の違い分析



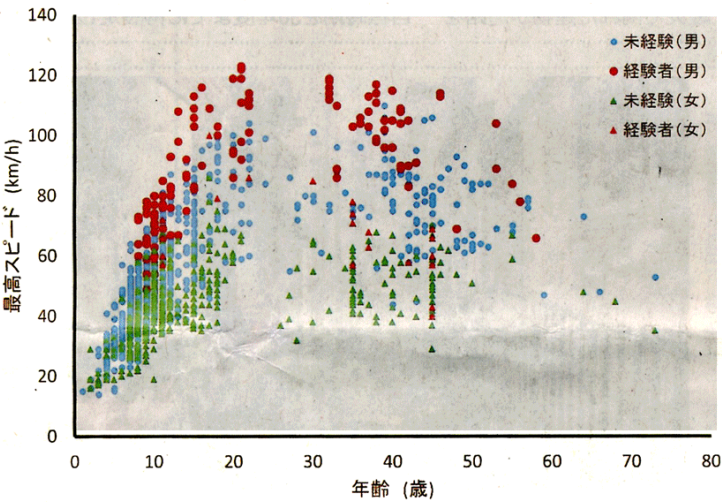
球速測定に挑戦する来場者(中央)15日、八戸市

事があった。野球部の指導者からバッティングフォームの間違いを指摘されたのだ。10年以上の経験があり、自分の感覚では「良い」と思っていただけにがくせんとしたという。

「3年勤め学ばんよりは、3年師を選ばべし」という中国のことわざがある。独学で止めたボールを打つティーバ

ツティングを行い、バットヘッドの軌道を映像で分析。経験者は2〜3秒の範囲に収まったのに対し、未経験者は10秒以上の開きがあった。一方、未経験者は通常の野球ボールよりも大きいボールを使用した場合、空振りせずにバットコントロールができた。改善策については「まず大きいボールを使い、打たせることが有効な手段」と説

市民の球速を測る取り組みも実施した。八戸市で開かれたイベント「青少年のための科学の祭典」に体験ブースを出展。ゲーム性が高く、若者男女が楽しみながら参加した。当然ではあるが、野球やソフトボールの経験者の方が、未経験者よりもスピードは速い傾向となった。「投げるこ



これまでの球速測定データの

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。